

【1. 概要】

- ・現地実証圃の結果を基に「アスパラガスIPMマニュアル」を作成し、現地指導機関に配布、生産振興検討会などを通じて説明、ホームページにも掲載し、普及を推進
- ・壱岐市ではUVAフィルム(H23導入圃場率100%)、黄色蛍光灯(H23導入圃場面積9ha、導入圃場率約70%)が普及

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

- ・長崎県の施設野菜の中では、アスパラガスの算出額が大きく、島嶼部も含め県内全域的に栽培、各地に産地が形成されている
- ・半促成長期どり栽培(露地から施設へ)で、アザミウマ類、コナジラミ類等の新たな難防除病害虫が顕在化した
- ・長期間収穫(2~10月)で農薬散布回数が多くなりやすいが、登録薬剤が少なく防除が困難な状況であったため、IPMを取り入れた技術の体系化を図った

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・生産者組織や現地普及指導機関との連携で現地に展示圃を設置し、技術を実証した上で導入した
- ・つま面開放、防虫ネット、UVAフィルム、フェロモン剤、黄色蛍光灯等を用いた「予防的措置」を重視し、それらを各産地の栽培作型に沿った体系で導入

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・アザミウマ類、ハスモンヨトウを対象とした薬剤散布は慣行基準では14回であったが、体系モデルでは7回と散布回数が50%低減した
- ・現地検討会、研修会等を通じてIPMの考え方や技術が地域へ普及した



図. IPM実践ハウス

表. IPM体系現地実証試験における各技術の評価

防除技術	褐斑病	斑点病	アザミウマ	ハスモンヨトウ	コナジラミ
妻面換気	○		-	-	-
立茎期散布+予防散布	○	○	-	-	-
UVAフィルム	-		△	-	×
要防除密度+殺虫剤散布	-	-	○		
防虫ネット(4mm目合い)	-	-	-	△	-
交信攪乱フェロモン剤	-	-	-	△	○
BT剤主体の薬剤散布	-	-	-	△	-
気門封鎖剤	-	-	-	-	○~△
スワルスキーカブリダニ	-	-	-	-	△~×

※ ○:効果高い、△:効果あるが不十分な場合有り、×:効果低い
 空欄:試験なし、-:対象外または効果不明
 ※ 4カ年の現地実証試験の結果から総合的に判断した

【問い合わせ先】
 病害虫防除所野菜・花き担当
 電話: 0957-26-0027